

● 評価書素案

都市再生緊急整備地域名		相模原橋本駅周辺・相模原駅周辺地域		
	上位計画、関連計画の位置づけ	都市再生に係る事業等	都市再生の効果の発現	特記事項
記載事項	<p>相模原市都市計画マスタープラン(H22年3月策定、R2年3月改定)】 ●「首都圏南西部における広域交流拠点」の形成 橋本駅及び相模原駅周辺について、「未来を拓くさがみはら新都心」の形成に向け、環境共生の視点を踏まえつつ、高次都市機能の集積を促進するとともに、それぞれの特性を生かした機能分担のもとで、さらなる商業・業務機能の集積を図り、国内国外を問わず三大都市圏におけるアクセス性の高い立地特性を生かし、首都圏南西部における中心的な地区として周辺都市からの求心性を高める都市づくりを進めます。</p> <p>① 橋本駅周辺の整備促進 ・橋本駅周辺では、JR横浜線、JR相模線及び京王相模原線の鉄道3路線が乗り入れていることに加え、圏央道相模原インターチェンジに近接し、国道16号、国道129号、国道413号及び津久井広域道路などの幹線道路も集中している交通結節点であることを生かした広域的な交通ネットワークの形成を図るなど、リニア中央新幹線の駅設置を見据え、その恵まれた交通の要衝としての機能をより一層強化します。 ・駅の南北間、隣接する商業地や公共施設との回遊性の向上を図り、橋本駅周辺の一体的な都市づくりを推進します。 ・暮らす人、働く人、訪れる人などが広域的に交流するゲートとして、多様な都市機能の集積を促進することで、産業の活力とにぎわいがあふれる都市づくりを推進します。</p> <p>② 相模原駅周辺の整備促進 ・相模原駅周辺では、相模総合補給廠の一部返還地等を生かし、スポーツや文化など市民が憩い、にぎわう空間を創出するとともに、周辺地区の今後の発展の起爆剤となる新市街地の形成を進めます。 ・小田急多摩線の延伸を見据え、相模原駅の交通結節点としての利便性の向上や、南北間の回遊性の向上による駅周辺の一体的な市街地の形成を進めます。</p>	<p>橋本駅周辺については、平成22年10月に橋本6丁目24番地区優良建築物等整備事業として、共同住宅や商業施設の整備が完了したほか、平成22年11月に日本金属工業相模原事業所跡地開発事業として、道路、公園、商業・文化施設、集合住宅の整備が完了している。</p> <p>現在、旧相原高校跡地を中心とした土地区画整理事業において、道路や駅前広場の整備等の都市基盤の配置や土地利用等について、県をはじめとする関係機関と調整を行っている。</p> <p>また、相模原駅周辺については、令和4年5月に、導入する機能等を定める相模原駅北口地区土地利用方針を策定している。</p> <p>今後は土地利用計画を策定し、土地所有者である財務省等と協議を重ねながら事業を推進する。</p>	<p>・人口(地域内) 6,286人(H17)→9,508人(R3) :約51%増(区全体:約2%増)</p> <p>・世帯数(地域内) 3,123世帯(H17)→4,823世帯(R3) :約54%増(区全体:約23%増)</p> <p>・地価(地域内) 橋本:35.6万円/㎡(H15)→49.5万円/㎡(R3) :約39%上昇(区内商業地域:約26%上昇) 相模原:37.9万円/㎡(H15)→33.6万円/㎡(R3) :約11%減少(区内商業地域:約17%上昇)</p> <p>・一日当たり乗降客数 橋本駅: 約224,860人/日(H28)→約230,358人/日(R1) 相模原駅: 約57,918人/日(H28)→約58,504人/日(R1)</p>	
項目別評価	「相模原市都市計画マスタープラン」において、「広域交流拠点」として位置づけられている。	リニア中央新幹線駅設置に伴う都市開発事業や公共施設整備事業が予定されている。	人口、世帯数、一日当たり乗降客数において、都市再生の効果の発現が認められる。	
総合評価	都市開発事業・公共施設整備が進捗し、整備の目標の実現が図られつつある。 今後も令和9年のリニア中央新幹線開業に向けて、予定されている都市開発事業の協議が進められていることから、引き続き、推進する必要がある。		⇒	地域指定を継続